

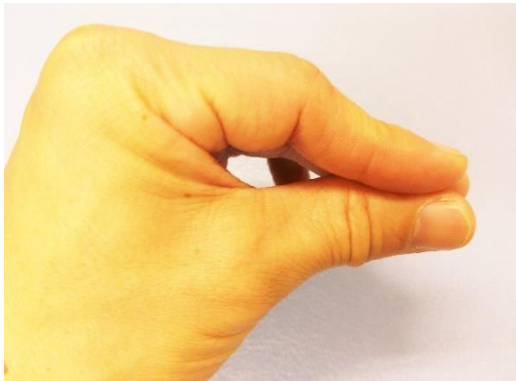
(検査のちょっとしたポイント)

- ① 僧帽筋など、筋肉の検査は姿勢による重力の影響を考えて下さい。

筋肉の状態をイメージする。

例として、座位の場合は重力が上からかかるので緊張しやすく、少し上に引き上げるようにしてつまむと触診しやすくなります。

例) 僧帽筋のつまみかた



× 指でもむように触診する



○ 指先を中心に『C』字にするようにつまむ
空間を作って指先でしっかりと「つまむ」

- ② 骨格の検査の場合、曲面を触る場合、平面を触る場合で自分の指をどの角度で接触させるかをイメージしながら行って下さい。

自分の指の骨端と検査する面をうまく接触させるようにして検査すると、触れた時の感触がわかりやすく、患者さまのリアクションも変わります。



× 指腹部だと感触が鈍る

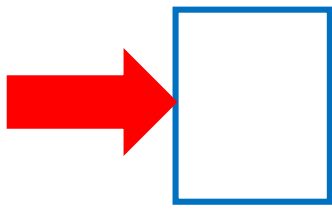
× 指先すぎると感触はわかりにくい

○ 骨端を検査部位の垂直に当てるとわかりやすい

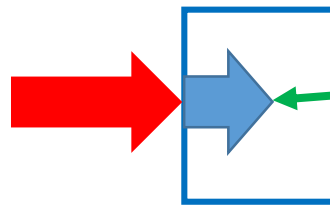


イメージとして、指の第一関節だけ折り曲げるようにすると
指先での触診はしやすい

③ C2 横突起などを押圧して検査する場合、グッと押した状態を 0 として、0 より引くことなくさらに押圧をかけるようにして検査する。

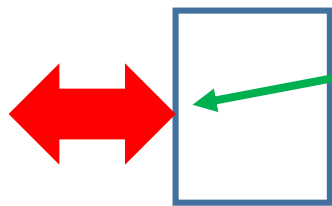


押圧して接触した状態 = 0



0 の状態から、さらに押圧する

この押し込んだ状態が
圧痛として認識される



接触した状態から「引いて押して」と触診
してしまうと、圧痛の判断ができない

× 接触した状態 = 0 から引くと感覚が曖昧になる
患者さまも本当に痛みの反応があるか、わからない